

高速道路の渋滞を警戒しましょう

コロナ禍が収束する方向が見え、都道府県による旅行支援が始まりました。割引率が高いので、旅行会社への予約が殺到しているそうですが、ドライブ旅行にも割引が適用される場合がありますので、長距離ドライブに出かける人が増えると予想されます。すでに京都・奈良など著名な観光地では、休日の駐車場で大混雑が戻ってきたと話題になっています。また、高速道路各社では10月から下半期リニューアル工事を続々と発表していますが、交通量の増加と工事規制も相まって、高速道路のいろいろなポイントでここ1、2年にはなかった大小の渋滞が発生する可能性があります。

去る9月28日に東名高速道路で発生したガスボンベ転落による火災事故は、トラック運転者が渋滞に気づくのが遅れたことが原因の一つと指摘されています。渋滞末尾への追突は危険です。高速道路で渋滞が発生すると、最近はかなりのスピードで電光表示板に掲示が出ますので、気をつけていればいち早く渋滞に気づくことができます。表示に注意して車間距離を保って走行し、追突事故を防ぐよう意識しましょう。

歩行者のいる横断歩道では必ず停止しよう

然として、歩行者の横断事故が多発しています。中には横断歩道を横断していて轢かれる例が少なくありません。宮崎県では、横断歩道上における歩行者の死傷事故がここ数年高止まりであることを憂慮して、緊急対策として横断歩道に赤い塗装を施したところ、横断歩道での停止率が15%近く改善したということです。宮崎市や延岡市など14市町で27か所に赤信号をイメージした赤色の塗装を施し、横断歩道が前方にあることを示す道路標示（ダイヤモンド）も赤色で縁取りました。塗装措置を施した後に警察本部で調査したところ、横断歩道を渡ろうとする歩行者がいた場合に車が停止する停車率は、塗装前の平均が56.9%だったのに対し、塗装後は71.7%に改善したそうです。このような工夫で、歩行者用信号機を設置するより費用が10分の1に抑えられ、維持費も軽減されるといいます。1件でも死傷事故を減らそうという自治体や警察本部の努力を評価したいと思います。私たち運転者は、たとえ横断歩道にこうした赤色塗装を施されていなくても、「横断歩行者がいれば赤信号」と考えて必ず停止するように努めましょう。

タイヤ交換は早めに済ませよう

海道の平取町内を走行していた軽トラックが橋の上で欄干に衝突し、運転していた男性が死亡する事故がありました。事故当時、現場周辺の道路は凍結していてアイスバーン状態になっていたということで、軽トラックがスリップしたものとみられています。

このところ、日本列島は急激に冷え込んでおり、各地で今シーズン一番の冷え込みになった地域も少なくありません。雪がよく降る地方のドライバーは、早めにスタッドレスタイヤに履き替えていると思いますが、そうでもない地方のドライバーはもう少し寒くなってから、タイヤを履き替えようという人も少なくないと思います。そういうときに限って、急に気温が下がって雪が降ったりすることがあります。そうすると、心ならずも夏タイヤのまま走行しなければならず、スリップ事故を起こすリスクも高くなります。今年の冬は、平年よりも厳しい寒さが予想されていますので、早めにスタッドレスタイヤに履き替えるようにしてください。